

Yang-Mills 方程式の解の空間について

京大数理研 村瀬元彦

§0. Introduction

E を 3次元複素射影空間 \mathbb{P}^3 上の simple algebraic vector bundle of rank n とする. 以下では E の Chern number が, $c_1(E)=0$, $c_2(E)>0$ となっている様なものを扱う. さらに, \mathbb{P}^3 の general line l に対し, E の l への制限 $E|_l$ が algebraically trivial になっていると仮定する. (例えば rank が 2 の場合には $c_1(E)=0$ のもとでこの仮定は常に満たされる. Grauert-Mulich の定理, Barth [4].)

$E|_l$ が代数的に自明でない様な \mathbb{P}^3 の projective line l を jumping line of E と呼ぶ.

Problem

上の様な E に対しては, その isomorphism class は E の jumping lines によって決まるか?

例えば rank=2 の時, $c_2(E)=1,2$ であれば肯定的

である。(Hartshorne [6]).

さて、一方で、1977年あたりから、物理学で扱われていた“instanton”が実は上に述べた代数的 vector bundle の実例を与えることが知られるようになった。ここで instanton とは次の様なものである；実4次元球面 S^4 を底空間に持ち $SU(n)$ を構造群とする C^∞ -principal fibre bundle P をひとつ固定したとき、 P 上の C^∞ -connection form ω であって、それから作った curvature form の L^2 -norm が最小になるようなもの。(Instanton と vector bundle の対応については [3], [7] を参照。また「数学」第30巻第2号 pp. 160 に簡潔な解説がある。)

ここでは次の結果を紹介する；

Theorem 1. (pp. 12)

$SU(2)$ -instanton に対応する rank 2 の vector bundle に対しては、その同型類は jumping lines によって定まる。(cf. Hartshorne [5], pp. 15.)

実は“irreducible”という条件のもとで、上の定理は $SU(3)$ -instanton に対応する rank 3 の vector bundle に

ついても成立する。一般の irreducible $SU(n)$ -instanton ($n \geq 4$) についても正しいであろうと思われるがまだ判らぬ。以下では主に $SU(2)$ の場合を扱い、 $n \geq 3$ についは §3 で簡単に触れるにとどめる。詳しくは [9] 参照。

Instanton は S^4 上に定義された (anti-) self-dual Yang-Mills 方程式と呼ばれる 1 階の非線型微分方程式の解としても特徴づけられる。Atiyah-Hitchin-Singer は index theorem を用いてその解空間の次元を求めたが ([1]), 具体的にどんな幾何学的 parameter によって解が決まるのか、はその結果から出ない。

ところで、 E の jumping lines は、 \mathbb{P}^3 の lines を分類する Grassmann manifold $Gr(1,3)$ 上の divisor を為している。この $Gr(1,3)$ は S^4 の natural な複素化になっており、しかも jumping lines の為す divisor と connection ω の "poles" の為す divisor とが一致しているのである。その divisor の degree は、 $Pic(Gr(1,3)) \cong \mathbb{Z} \cong H^4(\mathbb{P}^3, \mathbb{Z})$ の元として $c_2(E)$ に等しい。Instanton から algebraic vector bundle \wedge の対応が 1 対 1 であるこ

とから、次の定理が成り立つ。

Theorem. 2.

(Anti-) self-dual Yang-Mills 方程式の解は、その複素領域に於ける "poles" の場所によって決まる。

§1. では instanton について簡単に述べる。

§2. で theorem 1 の証明を行ない、§3. で rank が高い場合 (即ち $SU(n)$ $n \geq 3$ の場合) について少し触れる。"Pole" についての話は [8] に譲る。

§1. Instantons.

[文献は Atiyah-Ward [3], Hartshorne [5], [7] の他, general reference として Atiyah et.al. [2] を挙げる.]

実 4 次元球面 $S = S^4$ を底空間とする位相的 $SU(n)$ -principal bundle を P とする。 P に associate した rank n の vector bundle を $E = P \times_{SU(n)} \mathbb{C}^n$ で表わす。 P の位相的同型類は第 2 Chern 類 $C_2(P) \in H^4(S, \mathbb{Z})$ によって定まるが、 S に unique C^ω -structure を入れた時、 P の実解析的同型類も $C_2(P)$ によって

決まるので、以下では P は C^ω -bundle と仮定してよ。

S の向き ε を固定して同型 $H^4(S, \mathbb{Z}) \cong \mathbb{Z}$ を決めたとき、 $c_2 = c_2(P) > 0$ となる様な P のみを扱う。 $\omega \in P$ の C^ω -connection form, Ω を対応する curvature form とする。 $\Omega = d\omega + \frac{1}{2}[\omega, \omega]$ である。 $\Omega \in \text{Lie 環 } \mathfrak{su}(n)$ に値を持つ 2-form on S と見做せば Hodge star operator による $*\Omega$ が定義出来る。

Proposition. 1.

次の (1), (2) は同値;

(1) ω は $\|\Omega\|^2 \stackrel{\text{def}}{=} -\frac{1}{4\pi^2} \int_S \text{trace}(\Omega \wedge *\Omega)$ の最小値を与える。

(2) ω は $*(d\omega + \frac{1}{2}[\omega, \omega]) = -(d\omega + \frac{1}{2}[\omega, \omega])$ を満たす。

(証明は簡単な計算で出来る。[7]参照)

上の (1) or (2) を満たす connection ω を SU(n)-instanton と呼ぶ。また (2) の方程式を anti-self-dual Yang-Mills 方程式という。(これに対し $*\Omega = \Omega$ を self-dual Yang-Mills 方程式と呼ぶ。Self-dual と anti-self-

dual の違いは S の orientation によるものなので本質的ではない。以下では専ら anti-self-dual 方程式を扱う。))

$\omega \in \mathcal{P}$ の instanton とすれば,

$$\|d\omega + \frac{1}{2}[\omega, \omega]\|^2 = C_2(\mathcal{P})$$

が成立する。つまり curvature の L^2 -norm の最小値は $C_2(\mathcal{P})$ で与えられている。この時 $C_2 = C_2(\mathcal{P}) \in \mathbb{Z}$ を "instanton number" と称し, $\omega \in C_2$ -instanton solution と呼ぶことがある。

Definition 1.

\mathcal{P} の C^ω -bundle automorphism $f: \mathcal{P} \rightarrow \mathcal{P}$, 即ち C^ω -diffeomorphism で各 fibre E を保ち, $\forall g \in SU(n), \forall p \in \mathcal{P}$ に対し $f(p \cdot g) = f(p) \cdot g$ を満たす f , を gauge 変換 と呼ぶ。 \mathcal{P} の 2 つの connection ω, ω' に対して,

$\omega' = f^* \omega$ なる gauge 変換 f が存在するとき ω と ω' とは gauge 同値 である, と称する。

$SU(n)$ の自己の上への作用を conjugation で定めるとき, $f \in \Gamma(\mathcal{P} \times_{SU(n)} SU(n))$ と思うことが出来る

る. 従って local trivializations E をめく P を変換函数系 $\{g_{\mu\nu}\}$ で表わせば, f は,

$f = \{f_{\mu}\}$, 各 f_{μ} は $f_{\mu} = g_{\mu\nu} f_{\nu} g_{\mu\nu}^{-1}$ を満たす $SU(n)$ -valued function, のように表示出来る. このことより, f は $\Gamma(E) \rightarrow \Gamma(E)$ なる線型変換を定義することか判る.

Gauge 同値なものを除いてどのくらい instanton があるか, を問題にする.

§2. Algebraic Vector Bundles over $\mathbb{P}_{\mathbb{C}}^3$

H は Hamilton 4元数体とする. $H \cong \mathbb{C} \oplus \mathbb{C}j \cong \mathbb{C}^2$ と見て $\mathbb{P}_{\mathbb{C}}^3 \cong H^2/\mathbb{C}^*$ とすれば, $j: H^2 \ni (h_1, h_2) \sim (jh_1, jh_2) \in H^2$ による, 2 involution $j: \mathbb{P}_{\mathbb{C}}^3 \rightarrow \mathbb{P}_{\mathbb{C}}^3$ が定義される.

$\mathbb{P}_{\mathbb{C}}^3 \cong H^2/\mathbb{C}^* \xrightarrow{\pi} H^2/H^* \cong S^4 = S$ なる natural projection を π で表わす. Involution j は π の各 fibre を保つ.

Theorem. (Atiyah-Ward [3])

Instanton ω は gauge 同値なものを除いて 1 対 1

に $\mathbb{P}_\mathbb{C}^3$ 上の $\sqrt{\text{rank } n}$ vector bundle $E(\omega)$ に対応する. また,
 $c_1(E(\omega)) = 0$, $c_2(E(\omega)) = c_2(\mathbb{P}) > 0$ であり, $\mathbb{P}_\mathbb{C}^3$ の
 general line $l \wedge$ の制限 $E(\omega)|_l$ は代数的自明である.

証明は, induced bundle $\pi^*\mathbb{P}$ の fibre $\in SL(n, \mathbb{C})$ に拡大したものに $\pi^*\omega$ により almost complex structure を入れ, ω が instanton であることとその almost c.s. が integrable であることと同値であることを用いて行なわれる. ([2], [7] 参照)

\mathbb{P}^3 に同次座標 $(z_0; z_1; z_2; z_3)$ を入れ, 対応する Plücker 座標を p_{ij} で表わす. これと次の関係にあるような $\mathbb{P}_\mathbb{C}^5$ の同次座標をとる;

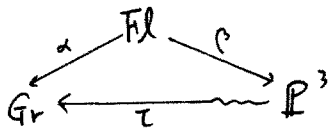
$$\begin{pmatrix} p_{01} \\ p_{23} \\ p_{02} \\ p_{13} \\ p_{03} \\ p_{12} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & 1 & & & & \\ & 1 & -1 & & & \\ & & & 1 & -i & \\ & & & 1 & i & \\ & & & & & 1 & -i \\ & & & & & -1 & -i \end{pmatrix} \begin{pmatrix} z_0 \\ z_1 \\ z_2 \\ z_3 \\ z_4 \\ z_5 \end{pmatrix}.$$

$\mathbb{P}_\mathbb{C}^5$ の中で方程式 $z_0^2 = z_1^2 + \dots + z_5^2$ により定義される 2 次超曲面を Gr と書く. Gr は, \mathbb{P}^3 の line を分類する Grassmann manifold $Gr(1,3)$ に等しい;

$Gr = Gr(1,3)$. このとき, \mathbb{P}^3 の involution j により, natural に \mathbb{P}^5 に involution が induce される. そ

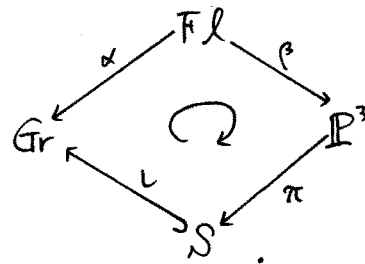
これは同次座標 $(z_0: \dots: z_5)$ に関する complex conjugation に他ならない。その involution による Gr の不動点集は、従って $S = S^4$ である。

$Fl = Fl(0, 1, 3) \hookrightarrow Gr \times \mathbb{P}^3$ を flag variety, $\alpha: Fl \rightarrow Gr$, $\beta: Fl \rightarrow \mathbb{P}^3$ を自然に定義すれば projection, $\tau: \mathbb{P}^3 \rightarrow Gr$ は algebraic correspondence とする。



$S \in Gr$ の real point とし
このめ込む写像 π を
で表わせれば、次の図

式は可換に存する；



C_2 -instanton ω と、 ω に対応する \mathbb{P}^3 上の vector bundle $E(\omega)$ をとる。 $c_1(E(\omega)) = 0$ に注意すれば、 \mathbb{P}^3 の任意の line l に対し、

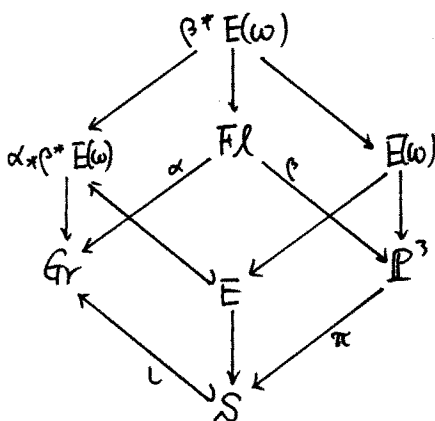
$E(\omega)|_l \cong \text{trivial} \iff h^1(E(\omega) \otimes \mathcal{O}_{\mathbb{P}^3}(-1)|_l) \neq 0$
であることが判る。そこで、次のように定義しよう；

Definition 2.

$\text{supp} (R^1 \alpha_* (\beta^* (E(\omega) \otimes \mathcal{O}_{\mathbb{P}^3}(-1)))) = J(\omega) \subset \text{Gr}(1,3)$
 を $E(\omega)$ の jumping lines の 為す set と呼ぶ.

$J(\omega) \ni x \iff E(\omega)|_{\tau^{-1}(x)} \neq \text{trivial}$, がい成り立つ.

さて, α は local には $\text{Gr} \times \mathbb{P}^1 \xrightarrow{\text{proj.}} \text{Gr}$ なる projection
 と同型だから, $\alpha_* (\beta^* E(\omega))|_{\text{Gr}-J(\omega)}$ は $\text{Gr}-J(\omega)$ 上の
 locally free sheaf になることが判る. また, τ



の vector bundle としこの引玉もとしは

$$l^* (\alpha_* (\beta^* E(\omega))|_{\text{Gr}-J(\omega)}) = E \quad (\text{real analytic bundle } \tau_2)$$

を満たすので,

$\tilde{E}_\omega \stackrel{\text{def}}{=} \alpha_* (\beta^* E(\omega))|_{\text{Gr}-J(\omega)}$ を実解析的 vector bundle E
 の "解析接続" と呼ぶことにする.

以下では $SU(2)$ -instanton, 即ち rank 2 の vector bundle のみを扱う. $\text{Pic}(\text{Gr}(1,3)) \cong \mathbb{Z}$ に注意する.

Proposition 2. (Barth [4].)

$n=2$ のとき $J(\omega)$ は $\text{Gr}(1,3)$ の divisor であり, その degree を coherent analytic sheaf $R^1 d_* \beta^*(E(\omega) \otimes \mathcal{O}_{\mathbb{P}^3}(-1))$ の第 1 Chern class ($\in H^0(\text{Gr}, \mathbb{Z}) \cong \mathbb{Z}$) で定義すれば

$$\deg J(\omega) = c_2(E(\omega)) \quad \text{が成立する.}$$

(cf. §3.)

Rank 2 の vector bundle $E(\omega)$ はさらに次の性質をもつ;

- 1) $H^0(\mathbb{P}^3, E(\omega)) = 0$, i.e. $E(\omega)$ は simple. (従ってこの場合は stable.)
- 2) \mathbb{P}^3 の involution j に lying over する bundle map \hat{j} で, $\hat{j}: E(\omega) \rightarrow E(\omega)$, $\forall \zeta \in \mathbb{P}^3$ に対し $\hat{j}_\zeta: E(\omega)_\zeta \rightarrow \overline{E(\omega)_\zeta}$, $\hat{j}^2 = -\text{id}_{E(\omega)}$, を満たす anti-linear map \hat{j} が存在する.
- 3) は $SU(2) \cong \text{sp}(1)$ であることに由来する. つまり $E(\omega)$ は symplectic structure を許す訳である.

実は, 0) $c_1(E)=0, c_2(E)>0$, 1), 2) を満たす rank 2 vector bundle は instanton に対応するものと知られて
いる ; $\exists \omega$ s.t. $E(\omega) \cong E$. ([3], [5].)

このとき, Gr 上の involution $\bar{\quad}$ で表わせば,
 $J(\omega) = \overline{J(\omega)}$ が成り立ち, \hat{E}_ω は Gr の complex
conjugation $\bar{\quad}$ に lying over する anti-linear involution を
持つ.

Theorem. 1.

1°). $\omega, \omega' \in 2$ の $SU(2)$ -instantons とする. この
とき, $E(\omega) \cong E(\omega') \iff J(\omega) = J(\omega')$ (set
theoretical に等しい.)

即ち, instanton に対応する vector bundle の isomorphism
class はその jumping lines の 為す divisor によつて
定まる.

2°). k -instanton solution ω に対しては $c_2(E(\omega))=k$
が成り立ち, jumping lines の 為す set $J(\omega)$ は
 $J(\omega) = \overline{J(\omega)}$, $J(\omega) \cap S = \emptyset$ を満たす degree k の
divisor である.

従つてすべての k -instantons は, complete linear

system $|\mathbb{K}D|$ の subset で $\mathbb{R}^3 \times \mathbb{R}^3$ に与えられる。こゝに D は $\text{Pic}(\text{Gr}(1,3))$ の positive generator. $2^\circ)$ は Barth の定理の帰結である。

Proof. $E(\omega) \cong E(\omega') \Rightarrow J(\omega) = J(\omega')$ は trivial 中之以下では $J(\omega') = J(\omega) \Rightarrow E(\omega) = E(\omega')$ のみ証明する。

1. Atiyah-Ward によれば, $E \rightarrow S$ に適当な local trivialization を与えることによつて $\omega \in S$ 上の有理形式として表現出来る。但し S には

$S = \{x \in \mathbb{R}^5 \mid x_0^2 = x_1^2 + \dots + x_4^2\}$ によつて定まる自然な実代数構造を与えておく。

さて, $\text{Gr} - J(\omega)$ は affine 代数多様体中之適当な affine open set で cover し, 各々の affine open set の上で bundle \tilde{E}_ω が代数的に自明になる様出来る。その local trivialization に関して, S 上有理的に表示された $\omega \in \text{Gr} - J(\omega)$ に type (1,0) の form として解析接続する。2つの open sets の共通部分では connection form の変換則によつてつなぐことにより $\text{Gr} - J(\omega)$ に global に type (1,0) の connection form $\tilde{\omega}$ を得る。但し $\tilde{\omega}$ は pole を持つかも知れ

なるが, ω と $\tilde{\omega}$ が \mathbb{R} 上 rational なるので, $\tilde{\omega}$ も $\text{Gr}-J(\omega)$ 上 1-形式 rational に存する.

2.

次にこの証明に於て本質的な役割をはたす命題を述べる. それは微分方程式 $*\Omega = -\Omega$ の幾何学的意味を明らかにするものである:

Proposition. 3. ([7] pp. 84, 命題 3.)

$\Omega = d\omega + \frac{1}{2}[\omega, \omega]$ に対し,

$$*\Omega = -\Omega \iff \forall \xi \in \mathbb{P}^3 \quad d\tilde{\omega} + \frac{1}{2}[\tilde{\omega}, \tilde{\omega}]|_{\tau(\xi)} \equiv 0.$$

これを用いると次のことが判る.

Lemma 1.

$\tilde{\omega}$ は $\text{Gr}-J(\omega)$ で holomorphic.

Proof. $\text{Gr} \setminus J(\omega) \ni x$ に対し x を含む affine open set の U をとり U としよう. U 上で $\tilde{E}_\omega|_U$ の trivialization をとりよめ, それに関して $\tilde{\omega}$ を $\mathfrak{su}(2)$ -valued 1-form として表わす.

$\tau^{-1}(x)$ の相異なる 2 点 ξ_1, ξ_2 をとり, $\tau(\xi_i) \cap U$ ($i=1,2$) 上で \tilde{E}_ω は trivial であり, かつ $\tilde{\omega}|_{\tau(\xi_i) \cap U}$ は

$d\tilde{\omega}|_{\tau(\beta_1) \cap U} + \frac{1}{2}[\tilde{\omega}, \tilde{\omega}]|_{\tau(\beta_1) \cap U} = 0$ を満たして 113
 から, この方程式を解くことにより $\tilde{\omega}|_{\tau(\beta_1) \cap U}$
 が $\tau(\beta_1) \cap U$ 上の正則形式であることを知り.

$\tau(\beta_1) \cong \tau(\beta_2) \cong \mathbb{R}^2$ は x で transversal に交わるので
 x の近傍で $\tau(\beta_1)$ の座標 x_1, x_2 , $\tau(\beta_2)$ の座標 x_3, x_4
 をとって $\tilde{\omega} = \sum_{m=1}^4 \tilde{\omega}_m(x_1, \dots, x_4) dx_m$ のように表わ
 される. $x = (0, 0, 0, 0)$ としたとき,

$$\tilde{\omega}|_{\tau(\beta_1) \cap U} = \tilde{\omega}_1(x_1, x_2, 0, 0) dx_1 + \tilde{\omega}_2(x_1, x_2, 0, 0) dx_2$$

$$\tilde{\omega}|_{\tau(\beta_2) \cap U} = \tilde{\omega}_3(0, 0, x_3, x_4) dx_3 + \tilde{\omega}_4(0, 0, x_3, x_4) dx_4$$

のように表示されるから, $\tilde{\omega}$ は x で正則であ
 る. \square

3.

$$\alpha|_{Fl - \alpha^{-1}(J(\omega))} = \bar{\alpha}, \quad \beta|_{Fl - \alpha^{-1}(J(\omega))} = \bar{\beta}, \quad \bar{\alpha} \circ \bar{\beta}^{-1} = \bar{\tau}, \quad \text{と書く.}$$

$$\begin{array}{ccc} & Fl - \alpha^{-1}(J(\omega)) & \\ \bar{\alpha} \swarrow & & \searrow \bar{\beta} \\ Gr \setminus J(\omega) & \xleftarrow{\bar{\tau}} & \mathbb{R}^3 \end{array}$$

Lemma 2

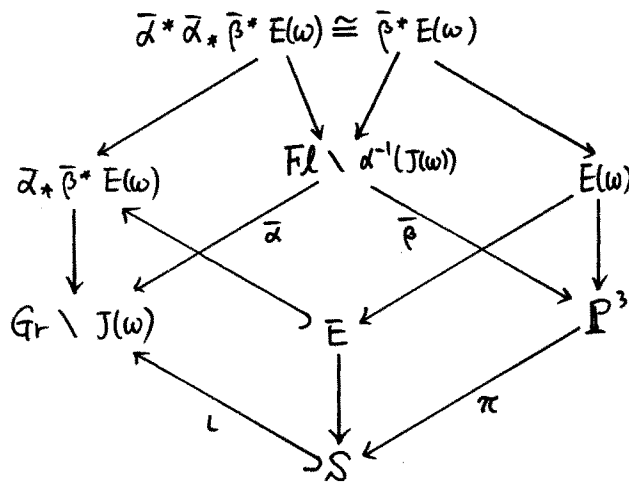
$$\bar{\alpha}^* \bar{\alpha}_* \bar{\beta}^* E(\omega) \cong \bar{\beta}^* E(\omega).$$

Proof. $\alpha: Fl \rightarrow Gr$ は local には $\text{proj}_2: Gr \times \mathbb{R}^1 \rightarrow Gr$

存在する 1st factor \wedge の projection と同型だから、これは、次の自明な Lemma からの帰結である。

Lemma. 2'.

U は任意の open complex manifold, K は任意の compact complex manifold, $\varphi: U \times K \rightarrow U$ は 1st factor \wedge の projection, とする。 $U \times K$ 上の locally free sheaf \mathcal{F} が $\mathcal{F}|_{\varphi^{-1}(u)} = \text{free on } \varphi^{-1}(u)$ for $\forall u \in U$ を満たせば、 $\varphi^* \varphi_* \mathcal{F} \xrightarrow{\sim} \mathcal{F}$ 。



$Fl - \alpha^{-1}(J(\omega))$ には connection $\bar{\alpha}^* \tilde{\omega}$ が定義されている。 $\forall z \in P^3$ に対し $\bar{\beta}^{-1}(z)$ 上 $\bar{\alpha}^* \tilde{\omega}|_{\bar{\beta}^{-1}(z)}$ は flat であるから、 $\bar{\beta}^* E(\omega)|_{\bar{\beta}^{-1}(z)}$ の flat section 全体

$\Gamma_{\text{flat}}(\bar{\rho}^* E(\omega)|_{\bar{\rho}^{-1}(\mathbb{Z})})$
 $= \{ \Lambda \in H^0(\bar{\rho}^* E(\omega)|_{\bar{\rho}^{-1}(\mathbb{Z})}) \mid d\Lambda + (\bar{\alpha}^* \tilde{\omega}|_{\bar{\rho}^{-1}(\mathbb{Z})})\Lambda = 0 \}$
 が、 \mathbb{Z} は holomorphic による、 \mathbb{C} 上の 2 次元
 vector space として定義できる。そこで \mathbb{Z} の
 fiber $\varepsilon \Gamma_{\text{flat}}(\bar{\rho}^* E(\omega)|_{\bar{\rho}^{-1}(\mathbb{Z})})$ とする \mathbb{P}^3 上の vector bundle
 $\varepsilon E_{\text{flat}}(\omega)$ と書くことにする。

Lemma. 3.

$$E_{\text{flat}}(\omega) \cong E(\omega).$$

Proof. $\bar{\rho}^* E(\omega)|_{\bar{\rho}^{-1}(\mathbb{Z})}$ は trivial bundle $\rho^* E(\omega)|_{\rho^{-1}(\mathbb{Z})}$ の $\bar{\rho}^{-1}(\mathbb{Z})$
 \wedge の制限であるから、flat connection $\bar{\alpha}^* \tilde{\omega}|_{\bar{\rho}^{-1}(\mathbb{Z})}$ は trivial
 connection の制限として得られる。即ち、 $\bar{\rho}^* E(\omega)$ に
 定義された connection は自然に $\rho^* E(\omega)$ に拡張され、
 そのとき ρ の各 fibre $\rho^{-1}(\mathbb{Z})$ ($\mathbb{Z} \in \mathbb{P}^3$) に ε として
 は拡張された connection は 0 になる。従
 って、

$$E_{\text{flat}}(\omega) \cong \rho_* (\rho^* E(\omega)) \cong E(\omega). \square$$

4.

ω, ω' は \mathbb{Z} の $SU(2)$ -instanton とする。 $J = J(\omega)$

$= J(\omega')$ は $Gr(1,3)$ の divisor である。このとき $E(\omega)$ と $E(\omega')$ とは real analytic bundle として同型であるが、実はこの逆も成り立つ。

Lemma. 4.

$$\bar{\alpha}_* \bar{\beta}^* E(\omega) \cong \bar{\alpha}_* \bar{\beta}^* E(\omega').$$

Proof. τ は Stein manifold $Gr \setminus J$ 上定義された bundle 中の topological に (あるいは real analytic に) 同型であることを見ればよい。

$Gr \setminus J \ni x$ に対し $\tilde{E}_\omega = \bar{\alpha}_* \bar{\beta}^* E(\omega)$ の x に於ける vector bundle としての fibre $E_{\tilde{E}_\omega, x}$ を表わせば、 $E_{\tilde{E}_\omega, x} = H^0(\bar{\beta}^* E(\omega) |_{\bar{\alpha}^{-1}(x)}) = H^0(E(\omega) |_{\tau^{-1}(x)})$ 。同様に $E_{\tilde{E}_{\omega'}, x} = H^0(E(\omega') |_{\tau^{-1}(x)})$ 。ここで、 $\pi^* \omega$ によつて $\psi_{x, \omega} : E(\omega) |_{\tau^{-1}(x)} \xrightarrow{\cong} \mathbb{P}^1 \times \mathbb{C}^2$ なる complex analytic isomorphism が定まる。同様に $\pi^* \omega'$ によつて $\psi_{x, \omega'} : E(\omega') |_{\tau^{-1}(x)} \xrightarrow{\cong} \mathbb{P}^1 \times \mathbb{C}^2$ なる complex analytic isomorphism が定まる。従つて complex vector bundle としての同型

$\psi_{x, \omega'}^{-1} \circ \psi_{x, \omega} : E(\omega) |_{\tau^{-1}(x)} \xrightarrow{\cong} E(\omega') |_{\tau^{-1}(x)}$
 を定義するこゝが出来るか、これは section の同

$$\text{型 } \Psi_x : H^0(E(\omega)|_{\tau^{-1}(x)}) \xrightarrow{\sim} H^0(E(\omega')|_{\tau^{-1}(x)})$$

を induce する. Ψ_x は x には real analytic による
 の τ , \tilde{E}_ω と $\tilde{E}_{\omega'}$ とは C^ω -bundle として同型. \square

G_T - J に 解析接続された $\tilde{\omega}' \in \tilde{E}_\omega \xrightarrow{\sim} \tilde{E}_{\omega'}$ でありま
 ともとし, $\tilde{E}_\omega = \tilde{E}$ に 2 つの connection $\tilde{\omega}, \tilde{\omega}'$ が与
 えられた, と 思う こと が 出来 ます. (このとき
 $\tilde{\omega}'$ は gauge 変換 である.)

5.

$\zeta \in \mathbb{P}^3$ に対し, $\beta \in \bar{\alpha}^{-1}(\tau(\zeta)) \setminus \bar{\beta}^{-1}(\zeta)$ に 制限し
 た 写像は image \wedge の 同型 である. ζ :
 $\tau, \beta(\bar{\alpha}^{-1}(\tau(\zeta)) \setminus \bar{\beta}^{-1}(\zeta)) = U_\zeta$ と 書く. U_ζ は
 \mathbb{P}^3 の open set である.

Lemma. 5.

\mathbb{P}^3 の 任意の 点 ζ_0 に対し, $\zeta_1, \dots, \zeta_\sigma \in \mathbb{P}^3$ を 次
 の 1), 2) を 満たす ように とれ ます ;

$$1) \quad \bigcup_{\mu=1}^{\sigma} U_{\zeta_\mu} = \mathbb{P}^3$$

2) ζ_0 と ζ_μ を 通る line は jumping line ではない.

Proof. $\forall \beta \in \mathbb{P}^3$ に対し $\tau(\beta)$ は必ず S と 1 交わり交わるが, $\beta(\alpha^{-1}(S)) = \mathbb{P}^3$ なのだから, 1) を満たす有限変位 β_1, \dots, β_n が存在することは明らか. 2) の条件は, $\tau(\beta_0) \cap \tau(\beta_\mu) \neq \emptyset$ という条件だが, $\tau(\beta_0) \cap \tau(\beta_\mu) \neq \emptyset$ であり $\tau(\beta)$ は $\tau(\beta)$ の open dense subset 中では, 2) は $\beta_1, \dots, \beta_n \in \text{general}$ にすれば満たされる. \square

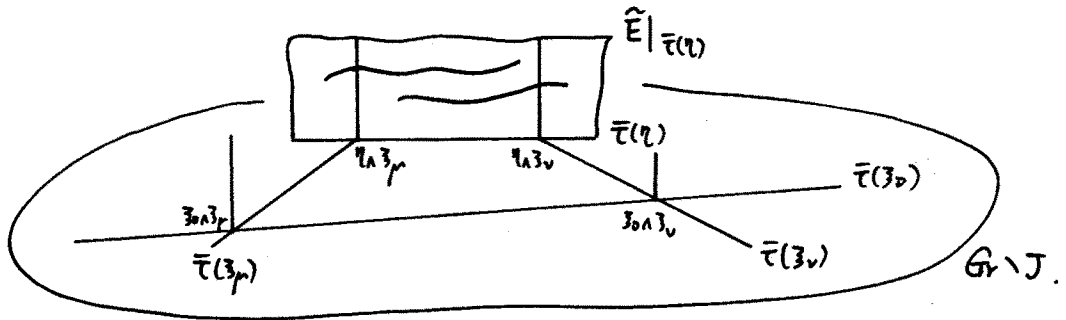
以上, lemma 2, lemma 4 により $\bar{\beta}^* E(\omega) \cong \bar{\beta}'^* E(\omega')$ だから, lemma 3 を考慮して $E_{\text{flat}}(\omega) \cong E_{\text{flat}}(\omega')$ を言えはよい.

Definition. 3.

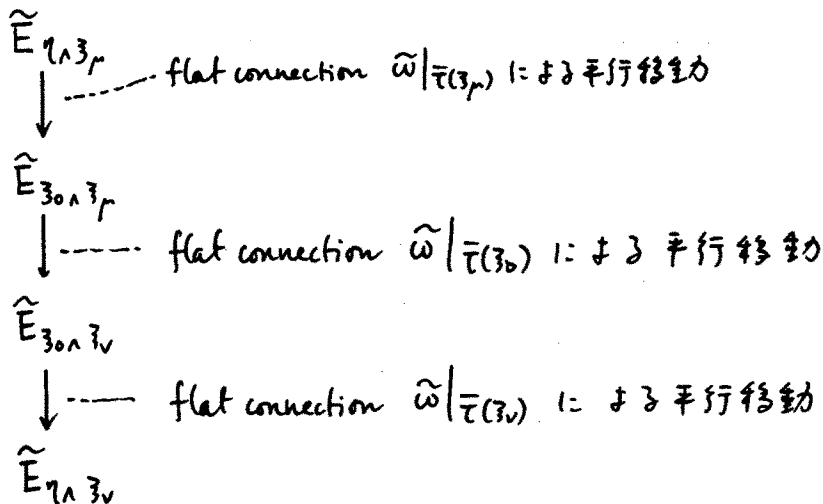
\mathbb{P}^3 の相異なる 2 変数 β, η に対し, β と η を通る line に対応する $\text{Gr}(1,3)$ の変 $\beta \wedge \eta = \eta \wedge \beta$ で表わす. $\tau^{-1}(\beta \wedge \eta) \ni \beta, \eta$.

$U_{\beta_\mu} \ni \eta$ をとる. $\tilde{E}_{\eta \wedge \beta_\mu}$ を "初期値の空間" とみて同型 $\tilde{E}_{\eta \wedge \beta_\mu} \cong E_{\text{flat}}(\omega), \eta$ を得る. 同様に $\tilde{E}_{\eta \wedge \beta_\mu} \cong E_{\text{flat}}(\omega'), \eta$ が得られるから, これを用いて $\Psi_\mu(\eta) : E_{\text{flat}}(\omega), \eta \xrightarrow{\sim} E_{\text{flat}}(\omega'), \eta$ を定義.

出来る. $\varphi_\mu(\eta)$ は $\eta \in U_{Z_\mu}$ に holomorphic に depend する.



次に $U_{Z_\mu} \cap U_{Z_\nu} \ni \eta$ とする. $E_{flat}(\omega), \eta \in \tilde{E}_{z_{1 \wedge Z_\mu}}$ と見た場合と $\tilde{E}_{z_{1 \wedge Z_\nu}}$ と見た場合のほり合わせ ε ,



で定義する. 合成した map $\varepsilon: g_{\nu\mu}^\omega(\eta): \tilde{E}_{z_{1 \wedge Z_\mu}} \xrightarrow{\sim} \tilde{E}_{z_{1 \wedge Z_\nu}}$

で表わす. $\{g_{\nu\mu}^\omega\}$ は vector bundle $E_{flat}(\omega)$ の, covering $\bigcup_{\mu=1}^n U_{Z_\mu}$ に属する変換函数系になる. 同様にして $\{g_{\nu\mu}^{\omega'}\}$ も定義できる.

±2, $\tilde{\omega}|_{\bar{\tau}(Z_\mu)} \pm \tilde{\omega}'|_{\bar{\tau}(Z_\mu)}$ もともたに flat である.

るから, section の base を適当に選んで

$$\tilde{\omega}|_{\bar{\tau}(3_0)} = \tilde{\omega}'|_{\bar{\tau}(3_0)} \quad \text{のよう} にしておく$$

$\tilde{E}_{\eta \wedge 3_\mu}$ の自己同型 τ ,

$$\tilde{E}_{\eta \wedge 3_\mu}$$

↓ --- flat connection $\tilde{\omega}'|_{\bar{\tau}(3_\mu)}$ による平行移動

$$\tilde{E}_{3_0 \wedge 3_\mu}$$

↓ --- flat connection $\tilde{\omega}|_{\bar{\tau}(3_\mu)}$ による平行移動

$$\hat{E}_{3_\mu \wedge \eta}$$

によ, τ を定める. 合成した map $\tau \in h_\mu^{\omega\omega'}(\eta)$ で表わす. このとき, 定義から

$$(h_\mu^{\omega\omega'})^{-1} \circ g_{\mu\nu}^\omega \circ h_\nu^{\omega\omega'} = g_{\mu\nu}^{\omega'}$$

が成り立つ. 従, $\tau \{g_{\mu\nu}^\omega\} \cong \{g_{\mu\nu}^{\omega'}\}$.

$\{g_{\mu\nu}^\omega\} \cong E(\omega)$, $\{g_{\mu\nu}^{\omega'}\} \cong E(\omega')$ を証明するには少し議論を要するがここでは略す. これで,

$$E(\omega) \cong E(\omega') \quad \text{が証明された. } \square$$

§ 3. SU(3)-instantons.

Definition. 4.

$SU(n) \hookrightarrow SU(n+1)$ によ, τ SU(n)-instanton は自然

に $SU(n+1)$ -instanton となるが, $SU(l)$ -instanton (for $l < n$) とはならず, " " " " $SU(n)$ -instanton を irreducible $SU(n)$ -instanton と呼ぶ.

$SU(n)$ -instanton は \mathbb{P}^3 上の rank n の algebraic vector bundle に対応するが, irreducible instanton は simple algebraic vector bundle に対応する.

Reducible $SU(3)$ -instanton に対応する vector bundle $E(\omega)$ は, $SU(2)$ -instanton に対応する rank 2 の vector bundle F と line bundle との extension として表わされる;

$$0 \longrightarrow \mathcal{O}_{\mathbb{P}^3} \longrightarrow E(\omega) \longrightarrow F \longrightarrow 0.$$

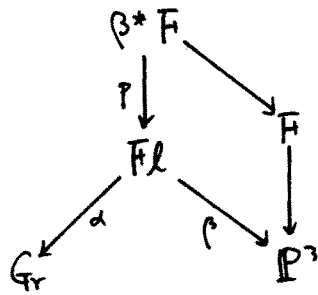
従って $E(\omega)$ の同型類は $J(\omega)$ で決まるとなる.

しかし,

Theorem. 3.

Instanton に対応する simple algebraic vector bundle of rank 3 の同型類は, その jumping lines の 為す set (この場合も divisor になる) によって定まる.

$H \in \mathbb{P}^n$ 上の vector bundle F , \mathbb{P}^3 の general line $l \wedge$ の制限 $F|_l$ が自明に存在する様なもの, としよう. Projection $\beta^*F \rightarrow F|_l$ を図のように β で



表わす. β^*F の各 fibre E を projectify した bundle $\mathbb{P}(\beta^*F)$ で表わし, $F|_l \wedge$ の projection $\bar{\rho} : \mathbb{P}(\beta^*F) \rightarrow F|_l$ を示す. $\text{rank } F = n$ とする. このとき

$$\alpha \circ \bar{\rho} : \mathbb{P}(\beta^*F) \longrightarrow Gr$$

は, $\mathbb{P}^1 \times \mathbb{P}^{n-1}$ の複素解析族を与えている.

$$x \in Gr \text{ が } F \text{ の jumping line} \iff (\alpha \circ \bar{\rho})^{-1}(x) \neq \mathbb{P}^1 \times \mathbb{P}^{n-1}$$

あり. 従って jumping line が divisor であるかどうかを調べるには, $\mathbb{P}^1 \times \mathbb{P}^{n-1}$ の変形族を作った時, special なものかどんな風に出ているかを見ればよい. $n=3$ の場合にこれを実行することによって, theorem. 3. が得られるのである. しかし詳細は [9] に譲る. (1979年1月30日. Do A.K., m.p.)

文献

1. M.F. Atiyah, N.J. Hitchin, & I.M. Singer : Deformations of Instantons. Proc. Natn. Acad. Sci. U.S.A. 74, 2662. (1977)
2. — : Self-duality in four-dimensional Riemannian geometry. Proc. R. Soc. Lond. A. 362, 425-461 (1978)
3. M.F. Atiyah, & R. S. Ward : Instantons and Algebraic Geometry. Commun. Math. Phys. 55, 117-124 (1977)
4. W. Barth : Some Properties of Stable Rank-2 Vector Bundles on \mathbb{P}^n . Math. Ann. 226, 125-150 (1977)
5. R. Hartshorne : Stable Vector Bundles and Instantons. Commun. Math. Phys. 59, 1-15 (1978)
6. — : Stable Vector Bundles of Rank 2 on \mathbb{P}^3 . (preprint)
7. 村瀬元彦 : Classical Euclidean Yang-Mills 場に於ける self-duality の幾何学的意味についで. 数理研講究録 324, 64-96 (1978)
8. — : (ワグトンの holonomic quantum field theory 研究会報告集掲載予定)
9. — : (線型微分方程式の超局所解析 研究会報告集掲載予定)